

「これは故意に国民の健康を損なう 犯罪的な行為です。」

フンデルトヴァッサー財団取締役ハーレル氏のメールより

大阪市の橋下市長は、反核の画家、故フンデルトヴァッサー氏がデザインした
大阪市舞洲焼却場で放射能汚染された瓦礫を燃やそうとしています！

核の廃絶を訴えた画家の作品で核汚染が世界にばら撒かれ、多くの命が危険に晒されます。
芸術に対して、また命に対して、このような冒涇(ぼうとく)が許されるのでしょうか。

フンデルトヴァッサー氏の作品は、スタジオジブリの宮崎駿監督にも多大な影響を与えています。



大阪市舞洲焼却場



樹を植えよ一核の危機を回避せよ

財団取締役であるハーレル氏は、故フンデルトヴァッサーの長年の友人です。
氏はメールで、

「震災の傷跡、そしてそれによって発生した放射能汚染とがれきは、
もはや無視できないし、簡単に取り除くことはできないものです。

しかし、だからといってこの毒を他の地方や町に拡散してしまっていていいという理由が
あるのでしょうか？

これは故意に国民の健康を損なう、犯罪的な行為です」

、とがれきの広域焼却処理に遺憾のことばを述べています。

「核のゴミは、50万年もの間、すべての生命を死の危険にさらし続けるのです」

(1980年のフンデルトヴァッサー氏のスピーチより)